

# One Control Minimal Series Pedal Board Junction Box with BJF Buffer

User Guide ユーザーガイド  
CONGRATULATIONS ON YOUR PURCHASE!!!

このたびは、ワンコントロール、ミニマルシリーズペダルボードジャンクションボックススイズビージャエフバッファをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本機の性能を十分に発揮するため、  
また誤使用による不具合を防ぐためにこの説明書をよく読んでお使い下さい。

One Control Minimal Series Pedal Board Junction Box with BJF Buffer は、ステージやスタジオなど、様々なシチュエーションで時間を無駄にしないためのツールです。  
2つのインプットと2つのアウトプットを持つこの小さなボックスの機能はとても単純ですが、絶大な効果を作り出します。

・もしも、ペダルボードに Input と Output があれば  
ペダルボードそれ自体をが1つのエフェクトペダルのように、ギターからのケーブルとアンプへのケーブルをつなぐだけでセッティング完了。  
もちろんステージをハケるときにも、余計な時間はかかりません。

・さらにバッファがあれば  
ペダルボードのインプット部にバッファがあれば、その後の端子接点やパッチケーブルを含めたケーブル長によるシグナルの変化も抑えることができます。  
インプットではなく、あえてアウトプットバッファとして使うこともできます。

・BJF Buffer  
多くの“バッファ”に抱かれるイメージを覆す、圧倒的にナチュラルな BJF Buffer。  
・ゲインを正確に1にすること。  
・インプットインピーダンスでは、音を変えないようにすること。  
・アウトプットは強くなりすぎないようにすること。  
・ノイズは極限まで少なくすること。  
・オーバーロードしたときに、音が悪くならないようにすること。  
BJF のこだわりのバッファの条件を満たし完成した BJF Buffer は、世界中多くのプロフェッショナルの足元で、ギターシグナルの手助けをしています。

多くのエフェクトが後に接続したもののほど効果が強くなるのに対し、バッファは先に接続したものの効果がより多く出ます。インプット部に BJF Buffer を組み込む意味はここにあります。  
BJF Buffer を ON にすることにより、全体の音色を暖かでナチュラルなトーンへと安定させることができます。もちろん、ペダルボードに設置するエフェクトの特性に合わせ、アウトプットバッファとして使うことも可能です。

・POLARITY/REVERSE  
楽器の音は、空気中を伝わる波です。その振動数が音程となり、振動幅が音の大きさとなります。楽器の音は複数の波が混ざり合うことで特定の音を作ります。  
位相とは、簡単に言えば波の始まる位置です。同じ波形であっても、始まる位置を変えることで、その瞬間の空気の動きは大きく変わります。  
その音が1つだけであれば、位相は音色に大きな影響を及ぼすことはありません。しかし、複数の音、つまりギターやベースなど複数の楽器を合わせたとき、位相の違いが音に影響します。  
仮に、全く同じ波形で位相が反転した音を、音源から同じ距離で聞くと、波形どうしが打ち消しあって音が全く聞こえなくなります。逆に、同じ波形、同じ位相の音を音源から同じ距離で聞くと、波形が重なり合い、大きな音量となって聞こえます。  
この波の打ち消し、重なりにより、バンドアンサンブル全体で「抜ける音」「抜けない音」の違いが大きく変わります。  
POLARITY/REVERSE スイッチは、機材の特性により反転することのある位相を元に戻したり、他のパートの位相と合わせるために使います。理屈はややこしいかもしれませんが、難しいことを考える必要はありません。リハなどでアンサンブルで音を出し、より良く聞こえる方に設定する。ただそれだけで、バンド全体の「音の抜け」「音の迫力」が変わります。

・ペダルボードを有効に使うために  
一部の高価なモデルを除き、多くのペダルボードはボードの縁に高さがあるため、ボードの端にエフェクターを設置すると、ケーブルのプラグが縁に引っかかってしまい、ペダルが浮いてしまうことがあります。そんな状態でフットスイッチを踏めば、ケーブルやペダルの故障にもつながりかねません。そのため、多くのペダルボードは本来のサイズよりも狭い範囲しか使うことができます。  
Pedal Board Junction Box with BJF Buffer は、インプットとアウトプットを筐体上面に配置しているため、ペダルボードの角にぴったり合わせて置いてもケーブルを傷めたりすることなく、ペダルボードのスペースを無駄にせずに使うことができます。  
もちろん、非常にコンパクトな設計ですので、Pedal Board Junction Box with BJF Buffer がペダルボードの場所を占有してしまうこともありません。

・余計なトラブル防止策に  
ライブの現場は、非常に慌ただしいものです。いつもなら当たり前のようにできることが、慌てたり焦ってしまうとできなくなってしまうこともあります。  
そのためには、予めできる限りのセッティングをした上でライブに臨みたいところです。Pedal Board Junction Box with BJF Buffer を使うことで、ペダルボード内の配置をなにも変えることなく、ステージの構成に合わせてインプット/アウトプットの場所を移動できるので、余計なトラブルを防止することができます。

・ケーブルの絡まりを予防  
ライブではステージ上に所狭しと機材が置かれています。アンプのインプットがギタリストやベーシストの右後ろにあることは何も珍しいことではありません。通常のペダルボードは右にインプット、左にアウトプットがあるため、ライブ中に動いているうちにケーブルが絡まってしまうこともよくあります。  
Pedal Board Junction Box with BJF Buffer は、ペダルボードのインプットとアウトプットを同じ位置にできるため、這わせるケーブルの配置を容易に決められます。それは結果的に、ステージ上でケーブルの絡まりを予防することにもつながります。

・小さなボードでも威力を発揮！  
Pedal Board Junction Box with BJF Buffer は非常に小さなサイズです。そのため、大きなシステムを組んだボードだけでなく、小さなボードにも大変有効です！

・使い方  
BUFFER/PASSIVE スイッチ: バッファの ON/OFF を切り替えます。PASSIVE モードではバッファが OFF となります。電源を接続しない場合は PASSIVE モードで使用します。

POLARITY/REVERSE スイッチ: BUFFER IN/BUFFER OUT 端子間で位相を反転します。このスイッチは BUFFER/PASSIVE スイッチが BUFFER 側のときのみ動作します。

9V IN: 電源アダプターを接続します。スタンダードなセンターマイナス DC9V 端子を使用します。バッファを使用する場合は必ず電源を接続してください。電源が正常に接続されていると、中央の LED が点灯します。

※Buffer OFF 時は A と B どちらの端子も好きな方向から接続することができます。  
Buffer ON 時、A 側の端子は必ず BUFFER IN から入り、BUFFER OUT からシグナルが出るように接続します。  
94D × 38W × 32H mm(突起含まず)  
94D × 46W × 40H mm(突起含む)  
インプットインピーダンス: 500k Ω (Buffer ON)  
アウトプットインピーダンス: 60 Ω (Buffer ON)  
重量: 220g  
消費電流: 3mA  
電源: センターマイナス DC9V アダプター  
※電池はお使いになれません。  
制作: LEP INTERNATIONAL 〒025-0098 岩手県花巻市材木町 12-19 TEL: 0198-23-6600